

「ゆめタウン大江」「ケーズデンキ熊本中央店」の進出

交通・環境・地域商店街への影響など、住民の不安に応えるべき

2月17日、松岡徹県議と日本共産党熊本地区委員会・日本共産党市議団で、市長に申し入れ

熊本市中央区大江（JT 跡地）に「ゆめタウン大江」「ケーズデンキ熊本中央店」が進出を決め、今年6月の開店に向け準備を進め、すでに工事が始まっています。1月17・18日には地元の大江公民館で、2つの事業者による住民説明会が開かれました。

交通渋滞や子どもの登下校の安全、騒音などの環境、深夜営業による青少年等への影響など、不安は払しょくされていません。

日本共産党は、松岡徹県議・重松熊本地区委員長・市議団3人で、住民の不安に応えるようにと、市長に対し申し入れを行いました。

住宅地・文教地区・交通難所への大型店の進出は、交通問題を深刻に

大江小・白川中・学園大学・学付中学・学付高校・学園大学・大江保育園など、学校・保育園が集中しています。朝8時からの開店は、通学時間に重なります。交通渋滞や子どもの登校の安全に大きく影響することが心配されます。

もともと渋滞の発生する交通の難所です。近くには、中央消防署もあり、大型店の進出により渋滞がひどくなれば、消防の出動への影響も懸念されます。

県立劇場での催し開催時は、今でも渋滞があり、出店により、交通へのさらなる影響が予想されます。

一方、事業者は、渋滞の影響についてわかりやすい説明もせず、問題を隠した状態です。

また、現在交通の影響調査が行われているのは、「ゆめタウン大江」「ケーズデンキ」だけです。JT跡地には、2カ所の大型店のほか、病院が2つ、銀行・店舗もできるので影響はもっと大きいと思われます。

【申し入れ事項】

- 1、熊本市として、大江地区への「ゆめタウン大江」「ケーズデンキ熊本中央店」の進出問題について総合的に検証し、可能な限りの対策を講じること
- 2、「住民説明会」を再度開催するよう事業者に求めること
- 3、心配される問題が解決するまで工事を中断するよう求めること

「森の都づくり」のシンボル ケヤキ並木が無残に伐採！

大型店予定地の隣接道路に、「森の都作戦」の一環として、ライオンズクラブの寄贈により植樹されていた「けやき」並木が、無残に伐採されました。住民に説明もなく、移植の検討もされないまま伐採されたことは残念です。怒りの声が寄せられています。

【控室から】 旅立ちの春

上野 みえこ

3月1日は、一番下の娘の高校卒業式、4月から大学へ。家を離れて一人での生活をはじめます。4人兄弟の末っ子というところもあって、一人で何かをするというところは、兄弟に比べ少なかつたと思います。一人暮らしは、これまでがない、いろいろなことの連続になると思います。新しい出会いや経験が、これまでがない成長の場になって行くのではないのでしょうか。広い世界で、つながりや視野を広げ、新しい自己をチャレンジしてほしいと思います。私も、遠くから応援していきたいと思っています。若い人たちを取り巻く状況は、依然厳しく、進学すれば高学費の負担、就職しても派遣やアルバイト等、非正規雇用になければ様々な困難にあえいでいる若者たちも少なくありません。若い人たちが、きちんと学び、当たり前のようにいけるような社会にと、旅立ちの春を迎えるたびに思います。

新年度予算が審議となる3月議会も始まっています。ムダ遣いは正して、いのち暮らし優先の市政にと、私も頑張ります。

日本共産党 市議会だより

発行：日本共産党熊本市議団
ますだ牧子 上野みえこ なすまだか
熊本市手取本町1-1 議会棟3階

NO. 889
2014年3月2号
電話 328-2656
FAX 359-5047

メール：kumamsu@gamma.ocn.ne.jp
ホーム：http://www.jcp-kumamoto.com/



視察報告 ～北九州市戸畑区へ行ってきました

築80年の旧戸畑区役所 歴史ある景観を残し図書館としてリニューアル



1933年(昭和8年)に建てられた
築80年の旧戸畑区役所

2月19日、共産党市議団は、北九州市戸畑区を訪れ、今年3月に図書館として生まれ変わる旧戸畑区役所について視察を行いました。設計や建物の耐震補強・リフ

アイニングを行っている「青木茂建築工房」のスタッフの方が対応され、建物再生への思いや特徴を語ってくれました。

歴史ある建物や景観をまちづくりにいかすことの大切さ

1933年(昭和8年)に建設された築80年の旧戸畑区役所。北九州市は、図書館として再活用を試みるも、耐震診断の結果、耐震性に問題があり主要な部分の活用が困難であること、外壁の保存・活用についてもコストがかかるなどを理由に、再検討を余儀なくされます。

しかしながら、市民からの存

続・利活用を求める声を受け、再生の道を決断。

当時の教育長は「歴史ある建築物であり、戸畑区のシンボルとして区民に親しまれている。外観や特徴的な内部装飾をできる限り保存したい」(2011年9月議会)と答弁し、歴史ある建物や景観をまちづくりにいかす決意を語っています。

どんな古い建物でも蘇らせることはできる！ ～当時の図面すらないところからスタート

耐震補強、建物のリファインディングを請け負った青木茂建築工房。古い建物だったこともあり、建物の図面すらない状況からのスタートだったそうです。また、外観を保存するために内部のみの耐震補強で対応することや、見通しのよい図書館の空間を確保するために耐震壁で空間を細かく区切ることができないなど、様々な制約がある中で、見事建物を蘇らせています。建築工房スタッフからは「どんな古い建物でも蘇らせることは可能」との言葉。

八幡製鐵などの鋼鉄産業とともに発展した町の歴史的背景も考慮し、鉄骨を用いた補強を行うなど、その町の歴史や文化を詰め込んだ建物へと生まれ変わり、多くの市民からオープンが待ち望まれています。



青木茂著「長寿命建築へ」より

築32年の産業文化会館を解体 歴史ある建物を壊し 広場整備を進める幸山市長

旧戸畑区役所のリファインディングを学べば学ぶほど、現在の熊本市のまちづくりのあり方への疑問が膨らみます。

まだまだ使える築32年の産業文化会館は、市長が推進する再開発計画を理由に閉館されました。さらに、再開発が破たんすれば、まるでお払い箱のように産文の解体を決定した幸山市長。産文の再開・利活用に向けた具体的な検証もせず、解体費や隣接民間ビルの買い取りなど20億円の莫大な税金を投じ広場にするという計画です。

まだ使える産文を解体し、他都市にな

らえと MICE (国際会議やコンサート施設) 施設の整備を進める熊本市。

歴史や文化の蓄積がないまちづくりは、やがて観光客のみならず市民にも見放されてしまいます。

熊本城をはじめとした歴史をいかしたまちづくり、城下町の街並みや景観を保全する取り組みなどが市民を交え進められています。こうした取り組みとあわせ、近代的な歴史建造物の価値を再認識し、まちづくりにいかしていく視点が今の熊本市には必要です。